



新しくオープンした北海道洞爺湖サミット記念館

テープカットを行う来賓者ら

北海道洞爺湖サミットの成果を後世に伝え、観光資源としても活用していこうと「北海道洞爺湖サミット記念館」が、3月20日観光情報センター（旧火山科学館）3階にオープンしました。広さは、約1,400で、メモリアルゾーンとエ

北海道洞爺湖サミット記念館オープン
当時の感動を後世に伝える

コゾーンの2つのゾーンで構成。

メモリアルゾーンには、首脳会議用の円卓や首脳の等身大パネル、首脳夫人との記念撮影パネルなど約60点展示。特に長さ11mの22カ国参加の拡大会議で使用したテーブルは圧巻です。

エコゾーンには、国際メディアセンターで展示された国際ショーケースなど約30点が展示されています。

式典では、関係者約50人が出席し、長崎良夫町長が「無事にサミットを閉幕することができました。町民はじめ多くの方に感謝します。この記念館は、サミットを後世に残すと同時に観光資源として大いに活用していきたい」と挨拶しました。

来賓として挨拶した高橋はるみ知事は「当時の感動を余すところなく伝える記念館が、多くの人に親しまれる施設として発展していくことを祈っています」と同記念館のオープンを祝福しました。

入館料（協力金）は、大人400円。開館時間は午前9時—午後5時。休館は12月31日と元旦。

7月3、4日「第12回縄文シティサミット」開催 プレ講演会で同サミットの機運盛り上げる

7月3、4日町内で「第12回縄文シティサミット」が町内で開催されることになり、教育委員会では、町民の皆さんに縄文時代や縄文人について知ってもらおうと5回シリーズでプレ講演会を開催しています。

3月28日には、洞爺湖ビジターセンターで、第2回プレ講演会「縄文時代の『おくりびと』と『ひとおくり』- 埋葬儀礼の復元 -」が、約70人の参加を得て開かれました。

講師は、伊達市噴火湾文化研究所の青野知哉学芸員。

恵庭市のカリンバ遺跡を題材に、遺跡から見つかる「墓」の分析から、縄文人の心のあり様を探りました。

引き続き第4回の講演会は、5月16日、13時30分からあぶたふれ合いセンター。第5回は6月20日同じくふれ合いセンターで13時30分から開かれます。

また同日、縄文サミットへの機運を盛り上げようと町内の縄文研究サークル「アプタフレナイの会」が、洞爺湖文化センターで勾玉作り講座を開き、子供らは、熱心に取組んでいました。



熱心に講演に聞き入る来場者

まちのわだい

